俺の先生

鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
俺の先生

【Ｎコード】
Ｎ４３５２Ｘ

【作者名】
鏡

【あらすじ】
高校入学直前、両親が離婚！？
昔から仲の悪い両親を嫌う主人公・祐樹は独り暮らしをする兄・俊明の家に転がり込む。
だけど俊明も都合により県外へ引っ越すことに…
仕方なく祐樹は俊明の知り合いの家に住ませて貰うことになったが…

なんやかんやでゆるーく生活する祐樹の物語！

是非！w

プロローグ（前書き）

ＢＬ作品！

なんか申し訳ないｗｗｗ

『名も無き少女』と並行して連載するので
まちまちになるかも…
マイペースに待っててね！

プロローグ

「じゃあ俺は兄ちゃんとこ行く」

3月のある日、ついに父と母の離婚が決定した。

昔から仲が悪くて兄と俺はそんな両親が大嫌いだった。学校から帰ってきても、聞こえるのは二人の怒鳴る声。「おかえり」なんてどのくらいきいてないだろう。

「俺は兄ちゃんと暮らす」

どちらかの親と暮らすのだけは嫌だった。

俺の名前は『鶴田祐樹(ツルタユウキ)』

来月から高校入学。俺の入学する高校は多少レベルが高い学校で、バカの俺には入学は難しかったが、必死に勉強し、見事合格。

そして兄の名前は『鶴田俊明(ツルタトシアキ)』

現在25歳で、大学卒業後逃げるように家を出た。俺に「早く自立出来るようにな」と言い残して。

両親が仲悪かったせいもあり、俺らはとても仲良しだった。

両親も俺が兄ちゃんね家に行くことに反対はしなかった。もちろ

ん兄ちゃんも賛成してくれて、俺は早速荷物をもって兄ちゃんの家にいった。

プロローグ（後書き）

さ、

次からが本題！

1．新居にて（前書き）

この回から本題とかいってたけど
まだっぽいねｗ

次かなー…ｗ

1．新居にて

埃っぽい手をパンパン、と二回叩く。目に見えて、埃が舞う。
「これで全部だ」
兄ちゃんのアパートに引っ越し完了。
「祐樹、終わった？」
部屋をひょいと覗いたのは、兄の俊明だった。さっきまで出掛けていて居なかったのだが。
「兄ちゃん！終わったよ！ありがとな」
兄ちゃんはふにゃりと笑って「おー」なんて言いながら去った。

片付いた部屋を後にし、兄ちゃんの部屋を覗く。兄ちゃんは着替えていた。薄水色のワイシャツに青のネクタイ、ピシッとスーツを着こなしている。
「仕事か？」
「そう、これからなんだ」
眼鏡を外してコンタクトをつける。個人的には、兄ちゃんは眼鏡が似合う。
よし、と一言、兄ちゃんは鏡から離れ俺の前に来た。
「悪いな、明日の朝まで帰れないんだ。晩飯、一人で食えるよな？」
ぽん、と頭に手をのせられる。いつまでも子供扱い…なんだけど、俺は兄ちゃんの手が好きだから構わない。
「大丈夫だ、心配すんなっ」
「ん、いいこだ」
くしゃくしゃと髪を乱される。俺はされるがままだった。
「じゃ、行くな。寝るときは鍵確認しろよ」

忙しなく、兄ちゃんは出ていった。家に取り残される。…なんだか寂しい。

「あー、退屈だ」

自室に戻り、ベットに倒れ込む。天井の木目をぼんやり眺めた。

引っ越しやなんやらで疲れていた俺は、うとうと微睡みかけていた……。

プルルルル…

プルルルル……

「うわっ！」

無人の家に鳴り響く電話のコールに俺は起こされた。慌ててリビングにある電話の受話器を取る。

「もっもしもし！」

『あ…あれ？俊明…じゃないよな。だれ？』

聞き覚えのない、男性の声。

「あ、えと、にいちゃ…俊明の弟です」

『弟？そう。俊明は？』

「仕事です」

ふぅん、と興味無さげに返事をする男。向こうも無言、俺も無言。重い空気…。

切ろうかなぁなんて考えはじめた俺に、男が声をかけてきた。

『君名前は？』

見知らぬ人に名乗っていいのか迷ったが、よく考えたら兄ちゃんの知り合いか。

「祐樹、です」

『ユウキ君か。今いくつ？』

「１５歳です。４月からＳ高生です」
『Ｓ高？……へぇ』
男は意味有り気に笑った。
『まぁいいや。俊明帰ってきたら〈神城から電話あったよ〉って伝えといてくれるかな』
神城…恐らくこいつの名前。
「わかりました神城さん」
じゃあ、とお互いに挨拶を交わしたあと受話器を置いた。

俺はやはり疲れていたので、晩飯を軽く済ませ、さっさと眠りについた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4352x/

俺の先生

2011年10月20日09時20分発行